

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K12356

研究課題名(和文)現代中国インディペンデント映画：生産・流通・消費を通じた批判的公共言説の生成

研究課題名(英文)Contemporary Chinese Independent Film: Genesis of Critical Public Discourses Through Production, Distribution, and Exhibition

研究代表者

中嶋 聖雄(Nakajima, Seio)

早稲田大学・国際学院(アジア太平洋研究科)・教授

研究者番号：70734325

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の問いは、「現代中国のインディペンデント映画が、規制が強まる中であっても、その生産・流通・消費を通じて批判的公共言説を生成するメカニズムはどのようなものか？」であった。映画製作者(監督・プロデューサー)と鑑賞者へのインタビュー調査等に基づき、1)国家と社会と芸術の関係性、2)生産と消費の関係性、3)映画製作者と作品への登場人物の関係性、4)研究者と研究対象の関係性、5)人とモノの関係性、6)フィクションとドキュメンタリーの関係性、7)歴史と現在の関係性、8)ナショナルとトランスナショナルの関係性、の八つの「関係性」のメカニズムを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

記述的地域研究に加えて分析的な地域研究を模索する一つの手立てとして、「研究成果の概要」で提示した八つの関係性に注目することの有効性を示したことが、本研究の学術的意義である。社会的意義としては、国外にはあまり伝えられない中国国内でのインディペンデント映画作品の内容とその生産・流通・消費を明らかにすることによって、様々な規制が存在する中でも、社会批判的な言説の発信が可能であることを示すことができ、それは日本を含む国外への示唆も大きいものであることを明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：I present a relational sociological approach to Chinese independent cinema by focusing on eight elements. 1) State, economy, and art: Complex relations exist among the government, the market, and Chinese independent cinema. 2) Production and consumption: Close linkages exist between watching and making Chinese independent cinema. 3) Filmmakers and subjects: Film works are created in collaboration with the subjects appearing in the films. 4) Researchers and researched: How can academic scholars responsibly engage with their research subjects? 5) Humans and non-humans: How do new technologies such as DV cameras influence the making and viewing of Chinese independent cinema? 6) Fiction and documentary: Directors of fiction and documentary often overlap. 7) History and present: Diverse relational constructions are possible in Chinese independent cinema's history and present. 8) National, transnational, and local: I examine the interaction between national, transnational, and local.

研究分野：社会学

キーワード：中国 映画 インディペンデント映画 生産 配給 消費 地域研究 社会学

1. 研究開始当初の背景

中国において、言論や表現に対する規制が強まってきている。しかし、アートや映画、文章などの各種メディアを利用した、様々な社会問題（所得格差、環境問題、教育問題、政府の政策の負の影響など）に関する批判的公共言説は、発信され続けている。本研究は、「現代中国のインディペンデント映画 政府の公式上映許可を得ていない、比較的低予算の映画；フィクションとドキュメンタリー双方を含む が、規制が強まる中であっても、その生産・流通・消費を通じて批判的公共言説を生成するメカニズムはどのようなものか？」という「問い」を提起した。

中国インディペンデント映画に関して、監督のインタビュー録など、優れた一次資料的価値を有する書籍・論文は出版されてきたが（例えば、中山大樹, 2013, 『現代中国独立電影』, 講談社）。分析的な研究は、遅れていた。しかし、ここ数年、学術的視点に基づいた研究が世に問われるようになってきた（例えば、佐藤賢, 2019, 『中国ドキュメンタリー映画論』, 平凡社）。しかし、先行研究のほとんどが映画学的な作品批評・テキスト分析であり、公共言説としての映画とそれを取りまく種々の言説が生まれる社会・文化的コンテキストを扱った社会科学研究はほとんどなかった。英語圏においては、2000年代半ばより、種々の研究が進められてきたが（例えば Paul Pickowicz and Yingjin Zhang, eds. 2006. *From Underground to Independent*. Rowman & Littlefield.）やはりそのほとんどが作品批評・テキスト分析であり、社会・文化的コンテキストを扱った研究は少なかった。そういった状況下、研究代表者は、長期フィールドワークに基づく社会学的参与観察や質的インタビューを用い、中国都市部に多く存在する「映画クラブ」（映画鑑賞や討議を行う「社会的サロン」）や政府の管轄外で自発的に組織されるインディペンデント映画祭の調査を続けて来た（縦えば、Seio Nakajima, 2013. “Re-imagining Civil Society in Contemporary Urban China: Actor-Network-Theory and Chinese Independent Film Consumption.” *Qualitative Sociology* 36, 383-402 [2013]）。しかし、それら研究は、中国国内の消費（鑑賞）のみに焦点を絞っており、生産・流通・消費という全環を総合的に把握した研究は、ほとんどなかった。さらには、中国国内の状況が、例えば、国外の映画祭、出資者やプロデューサー、また鑑賞者たちとどのような関係性を持っているのか、というトランスナショナルなつながりを視野に入れた研究は、ほぼ皆無であった。

2. 研究の目的

上記の背景のもと、本研究は、生産・流通・消費すべてを総合的に把握し、かつ、トランスナショナルなつながりを視野に入れて、現代中国インディペンデント映画が、批判的公共言説を生成してゆくメカニズムを、明確な理論的枠組み「関係性的社会学」によって明らかにすることを目的とした。さらに、地域研究が、「その地域の固有性を理解した上で、それをその地域の特殊性として語るのではなく、他地域との相関性において理解できるような語り方を試み得る」（京都大学・地域研究方法論研究会）という理解のもと、地域の固有性「本研究においては現代中国インディペンデント映画の固有性」を分析的に把握するために、一旦、抽象度を上げて、様々な地域に応用可能な要素を抽出する必要がある。その要素が、下記、「研究成果」で提示する八つの関係性であり、それらは記述的地域研究に加えて分析的な地域研究を模索する一つの手立てとなるという点で、本研究に、学術的独自性と創造性を付与することになった。

3. 研究の方法

本研究の対象は、中国インディペンデント映画全般であるが、特に、6人の映画監督（フィクション映画監督3人；ドキュメンタリー映画監督3人）のケーススタディをその焦点とし、中国でインタビューを行い、その生産、流通、消費過程の参与観察を行うことを企図した。フィクション映画監督・インディペンデント映画監督それぞれについて、1)インディペンデント映画と非・インディペンデント映画（政府許可のもと国内で公式上映される映画）の双方を製作経験のある監督、2)インディペンデント映画の中でも、そのコミュニティのメインストリームに位置し、中国国内外のインディペンデント映画界でエスタブリッシュされている監督、3)インディペンデント映画界の中でも特に小規模で実験的な製作を行っている監督の三群に分け、各セル一人ずつケースを想定した。ただし、本研究の実施期間は、コロナ禍が猛威を振るっていた時期と重なり、特に中国への渡航は厳しく制限されていた時期であったので、現地でのフィールドワークではなく、各種オンライン・メディアを活用したオンライン・インタビュー調査等を採用した。

4. 研究成果

上述のように、本研究の問いは、「現代中国のインディペンデント映画 政府の公式上映許可を得ていない、比較的低予算の映画；フィクションとドキュメンタリー双方を含む が、規制が強まる中であっても、その生産・流通・消費を通じて批判的公共言説を生成するメカニズムはどのようなものか？」というものであったが、その回答として、以下の八つの「関係性」のメカニズムを明らかにすることができた。

(1) 国家と社会と芸術（＝インディペンデント映画）の関係性

インディペンデント映画の多くは、批判的公共言説を生成するが、国家・社会関係においては、単純な「対立」ではない、複雑な関係性が存在することが明らかになった。例えば、1990年代半ば以降に現れた初期中国インディペンデント映画は、「体制内」の中国国営テレビ局でテレビ番組を製作していた人々が、正式な仕事以外での個人映画製作を、テレビ局の機材を私用して始めたものであることを詳述した。

(2) 生産と消費の関係性

従来、社会科学は、生産中心主義であった。映画研究においても同様の傾向がみられ、生産された作品の批評、あるいは、生産者の代表である監督論に議論の焦点があった。1970年代以降、カルチュラル・スタディーズの影響もあり、「読者」あるいは「消費者」への、研究重点の移行がみられたが、今度は、消費者の自由な解釈が強調され、生産者と消費者の相互影響関係という視点の欠落がみられた。生産と消費の二項対立ではない、関係性的社会学の視点から、現代中国インディペンデント映画における生産者と消費者の相互作用が明らかにされた。より具体的には、例えば、いわゆる「パーソナル・ドキュメンタリー」の出現の背景・現状について詳述した。

(3) 映画製作者（監督・プロデューサー等）と作品への登場人物の関係性

本関係性については、特に、ドキュメンタリー映画作品において、作品への登場人物に対する映画製作者の倫理的立場の複雑さ（登場人物からどのようにしてインフォームド・コンセントを得るのか；登場人物のプライバシー保護の問題等）について明らかにすることができた。

(4) 研究者と研究対象の関係性

多くのインディペンデント映画が、例えば、環境汚染批判、と言った規範的言説であり、研究者がそれを研究し、その現状をより広く社会に周知してゆくこと自体が、政治的価値や規範に関わる行為となる。本研究は、純粋に「客観的」な科学としての社会科学のみではなく、「規範科学」(normative science) あるいは「社会構想の学」(performative science) としての社会科学の必要性を提起した。

(5) 人とモノの関係性

近年、モノあるいは「物質性」(materiality)の重要性が唱えられている。中国インディペンデント映画においても、そこには、人間だけでなく、多種多様なモノが、その能動性を発揮している。例えば、1990年代後半以降の中国インディペンデント映画の発展は、モノとしての、軽量かつ高性能なデジタル・ビデオ・カメラの出現がなければ考えられなかったことなどを例に、中国インディペンデント映画における「物質性」への着目の重要性を提起した。

(6) フィクションとドキュメンタリーの関係性

中国インディペンデント映画の世界では、フィクション作品とドキュメンタリー作品の双方に関わる映画製作者が多いことが明らかとなった。フィクションとドキュメンタリーの関係性を映画製作者、また視聴者たちは、「真実」というキーワードをもとに、相互補完的なものとしてとらえていることが明らかにされた。

(7) 歴史と現在の関係性

中国インディペンデント映画に携わる人々の間でも、その原点や歴史的経緯について、多様な理解があることが明らかとなった。特に、「体制内」で制作されてきた映画の歴史との関係性を補完的なものとみるか、対立的なものとするかによって、「インディペンデント映画であることの意味」＝「独立性の意味」における差異が見られることが明らかになった。

(8) ナショナルとトランスナショナルの関係性

上記の七つの関係性すべてが、中国国内で完結することはなく、国内事情と国外の状況との関係性に影響を受けていることが明らかとなった。特に、国外の映画祭・国外のアート系ミニシア

ターにおける流通・消費が、中国国内におけるインディペンデント映画の製作・資金面での重要な支援源となっていることが明らかとなった。

<引用文献>

中山大樹,2013,『現代中国独立電影』,講談社.

佐藤賢,2019,『中国ドキュメンタリー映画論』,平凡社.

Paul Pickowicz and Yingjin Zhang, eds. 2006. *From Underground to Independent*. Lanham: Rowman & Littlefield Publishers, Inc.

Seio Nakajima. 2013. "Re-imagining Civil Society in Contemporary Urban China: Actor-Network-Theory and Chinese Independent Film Consumption." *Qualitative Sociology* 36, 383-402 (2013).

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Nakajima, Seio	4. 巻 Volume 1, Issue 1
2. 論文標題 Studies of Chinese Cinema in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Chinese Film Studies	6. 最初と最後の頁 167-186
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1515/jcfs-2021-0001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakajima Seio	4. 巻 4
2. 論文標題 Marketing Art Films in Contemporary China: Between the Rock of Politics and the Hard Place of Economy	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Marketing the Arts: Breaking Boundaries	6. 最初と最後の頁 64 ~ 79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4324/9781003021766-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakajima Seio	4. 巻 7
2. 論文標題 Book Review: Chinese Film Festivals: Sites of Translation	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Global Media and China	6. 最初と最後の頁 380 ~ 382
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/20594364221089985	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 2件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Seio Nakajima
2. 発表標題 The Sociability of Millennials in Cyberspace: A Comparative Analysis of Barrage Subtitling in Nico Nico Douga and Bilibili
3. 学会等名 East Asian Youth and Public Spaces（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Seio Nakajima
2. 発表標題 Chinese Middlebrow?: The Audience Construction of Chinese Art-house Cinema
3. 学会等名 Research Workshop on Contemporary Chinese Art-House Cinema (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Nakajima, Seio
2. 発表標題 In Dependence and In Relation: A Relational Sociological Approach to Chinese Independent Cinema
3. 学会等名 Reassessing Chinese Independent Cinema: Past, Present ... and Future? (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Playing with Scales of Visibility: The Politics of Recognition of a Grassroots Collective in China	開催年 2022年～2022年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------